

野洲市生涯学習振興計画



平成26年3月

平成29年3月一部改訂

野洲市教育委員会

はじめに

野洲市における今日までの生涯学習・生涯スポーツ活動は、市民の高い学習意欲を背景に、積極的に取り組まれてきております。

市民のみなさんの暮らしが多様化する中で、これからの社会は、心の豊かさを求める人々の要求が高まり、学習に対する人々の意欲はますます増大することが考えられます。

また、今後の生涯学習の視点として、学んだことを地域・家庭で活用できる仕組みづくりが重要なこととしてあげられます。

野洲市では、豊かな自然と歴史に恵まれたにぎわいとやすらぎのあるまち～みんなが住みたい、住み続けたいと実感できるまちづくり～を推進していきます。これからも、市民と協働しながら、市民一人ひとりが生涯にわたり学習活動をすることができる環境の整備・充実に努めてまいります。

さらに、平成19年10月から市の職員が講師となり、市の施策や制度を説明する「生涯学習出前講座」をスタートさせ、全庁的な推進体制により、生涯学習の普及啓発に取り組んできたところです。

また、市民のみなさんが、地域や社会の中で、学習の成果が活かされていると実感できるよう、生涯学習のひとづくり、まちづくりを進めていきたいと考えております。

そこで、新たな計画では、「学ぶ」、「活かす」、「つながる」、「広がる」、「健康」の5つを基本的な視点とし、特に「活かす」を重要な視点として位置づけます。人とひと、人と地域、機関と機関等、様々なものを「活かす」ことにより新たなものを生み出し、個人と社会の豊かさの実現を図っていきたいと考えています。

最後になりましたが、生涯学習は、老若男女すべてを対象としていることから、文脈は簡単明瞭となるよう心がけました。

目次

contents

序章 野洲市の概況

位置・地勢条件と歴史・文化	1
---------------	---

第1章 計画策定にあたって

1 計画策定の趣旨	2
2 基本計画の役割・構成	2
3 計画の位置づけ	2
4 計画の期間	3
5 計画の策定体制	3
6 生涯学習とは	4

第2章 計画策定の背景及び現状と課題

1 生涯学習振興をとりまく社会的背景	
① 少子高齢化の進展	5
② 家庭や地域の教育力の低下	5
③ 環境問題の顕在化	6
④ 高度情報化の進展	6
⑤ 労働環境の変化	6
⑥ 国際化の進展	7
2 野洲市における生涯学習の現状と課題	
(1) 生涯学習の現状	7
(2) これからの生涯学習の展望	8
3 計画の推進に向けた課題及び計画の方向性	
(1) 計画の推進に向けた課題	
① 野洲市民に求める生涯学習	8
② 学習の成果を地域で活かす	9
③ 学習を通じた交流	9
④ 生涯学習の推進体制	9
(2) 計画の方向性	9

第3章 計画の基本的視点・基本目標と施策の柱

1 基本的な視点	
(1)多様な学習と人材の発掘・育成	10
(2)学習の成果を活かすことの大切さ	10
(3)仲間づくりの場として	10
2 基本目標	
(1)市民の主体的な生涯学習の展開	11
(2)地域における生涯学習の振興	11
(3)協働による生涯学習の推進	12
3 施策の柱	
(1)「学ぶ」	12
(2)「活かす」	12
(3)「つながる」	12
(4)「広がる」	13
(5)「健康」	13
4 生涯学習振興施策体系	14

第4章 施策の展開

1 【学ぶ】ために	15
2 【活かす】ために	17
3 【つながる】ために	18
4 【広がる】ために	19
5 【健康】のために	20

第5章 生涯学習推進のための施設のあり方

生涯学習推進のための施設のあり方	21
------------------	----

施設の一覧

■ 野洲市生涯学習関連施設一覧	22
-----------------	----

序章 野洲市の概況

位置・地勢条件と歴史・文化

野洲市は、滋賀県の南西部に位置し近江富士とも呼ばれる美しい姿の三上山と、野洲川と日野川に囲まれた、東西距離10.9km、南北距離18.3 km、面積80.14 km²の規模で琵琶湖に接する人口約5万人のまちです。

市内には、希望が丘文化公園や近江富士花緑公園、マイアミ浜等自然景観に恵まれた数多くのレクリエーション施設があり、市外からも多くの人々が四季それぞれに彩られる豊かな自然にふれあうために本市を訪れています。

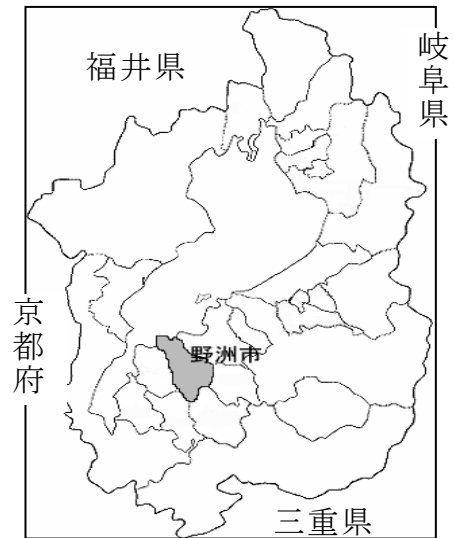
また、文化面では日本最大の銅鐸をはじめ、多数の銅鐸が出土し、「銅鐸のまち」として知られています。さらに大岩山古墳群等国の史跡に指定された代表的な遺跡があります。

神社仏閣では、平安時代の延喜式神名帳にも記載のある兵主大社、国宝の社殿をもつ御上神社や大笹原神社、真宗木辺派の総本山である錦織寺をはじめ、平家物語に登場する祇王祇女由来の妓王寺等豊富な歴史・文化遺産に恵まれたまちです。

このように野洲市は豊かな自然と歴史・文化に恵まれたまちであり、人々の暮らしの中には、コミュニティの密接なつながりと互いに助け合う精神が培われ、祭り等の伝統文化が受け継がれています。

さらに、交通網として、鉄道はJR東海道本線（琵琶湖線）や新幹線が古代から残る条里の痕跡に沿って東西を通過し、道路網では、国道8号や名神高速道路が鉄道と並行して走る交通の要衝でもあります。また、JR電車基地が整備されていること、名神高速道路ではインターチェンジが近郊に整備されていることから近畿圏や中部圏とのアクセスに優れた位置に

あり、地の利を活かして、情報先端産業が早くから進出し、「ITのまち」とも呼ばれています。



三上山(近江富士)

第1章 計画策定にあたって

1 計画策定の趣旨

本市は、豊かな自然や歴史と文化、また人的にも多くの資源・財産に恵まれ、多種多様な文化的環境のもと、「一人ひとりが大切にされ、おとなも子どもも共に学びあうひとづくり・まちづくり」を基本理念として、生涯学習施策を計画的に振興していくための指針として、新しく「野洲市生涯学習振興計画」を策定するものです。

2 基本計画の役割・構成

本計画は、野洲市教育振興基本計画の「部門計画」として位置づけられます。教育振興基本計画が示す基本的な方向性を踏まえ、本市の生涯学習振興に関する総合的、計画的な行政運営の指針として、野洲市の総合計画を補完する役割を果たすことになります。

また、市民の生涯学習を支援するための基本的な目標を明らかにし、その実現のための方策を整理し、具体的な取り組みを振興計画の中で構成します。

なお、「振興計画」は、新たな課題等に対応するため、中間地点で見直しを行うこととします。

3 計画の位置づけ

本計画は、「野洲市総合計画」を基軸に、野洲市教育振興基本計画と整合性を図りながら、立案することとし、生涯学習を進めていくこととします。

野洲市総合計画（平成24年4月改定）

野洲市教育大綱（平成28年4月策定）

野洲市教育振興基本計画（第2期平成28年4月策定）

野洲市生涯学習振興計画（平成29年3月一部改訂）

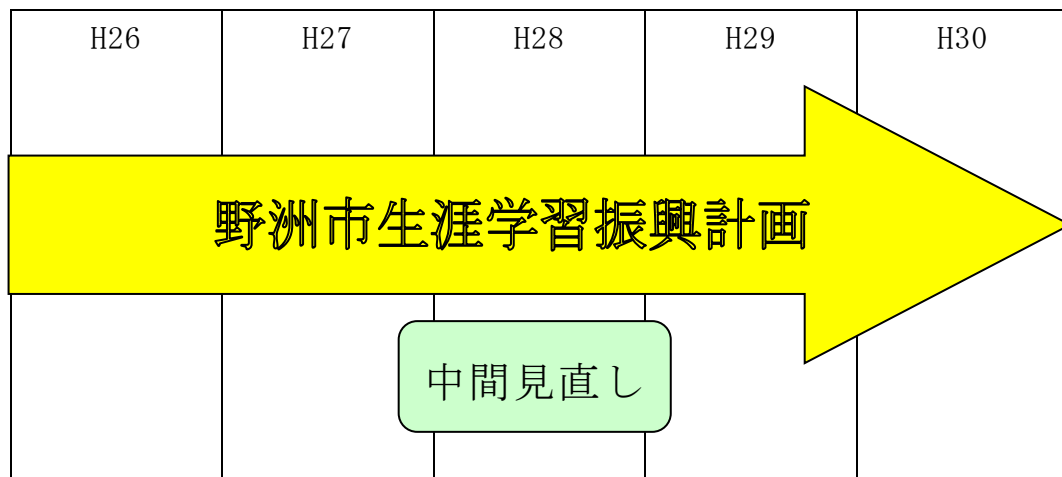
野洲市スポーツ推進計画（平成28年3月策定）

- 自ら学べる生涯学習環境づくり
- 学ぶことが活かされるしくみの構築
- 情報の提供
- 生涯学習の実践とひろがり
- 生涯スポーツの実現

4 計画の期間

本計画の期間は、平成26年度から平成30年までの5年間とします。

なお、社会情勢の変化や施策の動向を踏まえ必要に応じて、計画内容の検討と見直しを行います。



5 計画の策定体制

計画の策定・検討にあたっては、市民からの意見を取り入れ、市民を対象としたパブリックコメントを実施し、幅広い意見の反映に努めました。

- ①豊かな人間性をはぐくむまち
- ②人とひとが支え合う安心なまち
- ③地域を支える活力を生むまち
- ④美しい風土を守り育てるまち
- ⑤うるおいとにぎわいのある快適なまち
- ⑥市民と行政がとものつくるまち

6 生涯学習とは

「生涯学習」という言葉は、家庭教育、学校教育、社会教育を全て含むもので、人々が生涯行うあらゆる学習を総称する言葉です。

生涯学習分野には、学術的な内容ばかりでなく文化・芸術・スポーツ・レクリエーション、ボランティア、趣味等の分野が含まれます。学習形態では、本を読んだり、通信教育を受けたりする個人学習、学校での学習、コミュニティセンター・図書館等の公共施設等が行う講座の受講、民間のカルチャースクールやスポーツクラブでの学習、企業内教育、サークル活動等さまざまな形態で行われています。

また、「生涯学習」という言葉は、「生涯学習社会」を目指そうという考え方、理念自体を表す言葉でもあります。「生涯学習社会」とは、「人々が生涯のいつでも自由に学習機会を選択して学ぶことができ、その成果が適切に評価される」社会を指す言葉で、私たち



ストックウォーキング

が、いつ、どこで、学んでも、その能力や努力が色々な角度から認められ、学習が生きがいや心の豊かさに繋がるような社会を指すものと言われています。

「学習すること」とは、私たちの生活すべてに及びます。趣味やスポーツ、レクリエーションはもちろん、社会的・現代的課題、ひいては私たちの住む「野洲市」のまちづくりにも目を向けて考え、学んだことを活かしながら、積極的に活動することも大切な生涯学習です。

- 生涯学習は、生活の向上、職業上の能力の向上や自己の充実をめざし、各人が自発的意思に基づいて行うことを基本とします。
- 生涯学習は、可能なかぎり自己に適した方法を自ら選びながら、生涯を通じて行うものです。
- 生涯学習は、学校や社会の中で意図的、組織的な学習活動として行われるだけでなく、日常のスポーツ活動、文化活動、趣味・レクリエーション活動、ボランティア活動等、個人で自主的に行なわれるものが多くなっています。

【ワンポイント】

- ⇒ 個人で、あるいは仲間とともに、楽しく学びながら、自分の考え方や生き方を深化するきっかけをつかむ。それが、生涯学習の意義であり、面白さです。

第2章 計画策定の背景及び現状と課題

1 生涯学習振興をとりまく社会的背景

① 少子高齢化の進展

わが国の出生率は、2005年に過去最低の1.26人となり、その後大きくは回復せず、今後も少子化はこのまま進行することが予想されます。

また、高齢化率は2010年では23%で、今後、2020年では29.1%、さらに2030年では31.6%に上昇していくと予想されます。（内閣府平成25年版「高齢社会白書」）（野洲市での2017年の高齢化率は24.8%）

野洲市においては、今日まで大都市への通勤圏として人口は増加し続けてきましたが、その増加率は近年では1%を下回り、県平均をも下回っており、野洲市の人口は近い将来には緩やかに減少に転じる傾向があります。

急激な少子高齢化による人口構成の変化と人口の減少は、年金、医療、社会保障等社会全体に深刻な影響を及ぼすことが懸念されています。

少子高齢社会が抱える課題を理解し、ともに生きていくという視点を育むために、あらゆる世代に学習情報や機会を提供していくことが求められています。

② 家庭や地域の教育力の低下

近年の都市化や核家族化による家庭の教育力の低下、また地縁的なつながりの希薄化による地域の教育力の低下、さらには、少子高齢化に伴う地域社会の活力の低下等、新しい課題が出てきています。

自立する力、自立する心、社会的な規範意識、基本的な生活習慣を身につけること、また、人とのコミュニケーション能力を育むこと等、今日ほど家庭、地域の教育力の重要性が叫ばれているときはありません。



生涯学習セミナー

③ 環境問題の顕在化

物質的な豊かさを求め、生活の快適性・利便性を追求し続けた結果、ごみ問題からエネルギー問題に至るまで、私たちは環境問題に直面しています。

特に地球温暖化やオゾン層の破壊等、地球規模の環境にまで影響を与えています。

こうした中、市民による環境保全活動や啓発事業、また環境教育等を通じ、この問題に対する市民の意識の向上と現状の改善のための官民をあげての取組みが必要となってきました。



ゴミゼロ作戦

④ 高度情報化の進展

IT技術の発展は、社会全体の学習機会を拡大し、市民一人ひとりの理解力、想像力を高めていく可能性があります。

反面、人間関係の希薄化、有害情報の氾濫等、その弊害についても大きな課題となってきました。

今後、さらなる情報通信技術の進展も視野に入れ、情報化に対応可能な学習の場や機会の提供が求められます。

⑤ 労働環境の変化

経済のグローバル化や情報化、少子高齢化の進展、女性労働者の増加、雇用就業形態の多様化、若者を中心とした職業意識の変化等、わが国の雇用・労働を取り巻く環境は大きく変化しています。

これらの変化に的確に対応し、充実した社会生活や職業生活を営むために、生涯を通じて、常に新しい知識や技能を身に付けることが重要になっています。

⑥ 国際化の進展

情報通信技術等の発達により、産業の国際化が進み資本や労働力も世界規模で移動するようになりました。

企業だけでなく個人のレベルでも、世界を舞台とした活動が日常化しており、国際交流等国際化を視野に入れた取り組みがより一層必要となっています。今後、国際化に照らしてものを見たり考えたりする能力や態度を培うために、学校教育や社会教育を通じての学習が求められます。

2 野洲市における生涯学習の現状と課題

(1) 生涯学習の現状

野洲市では、個人やグループによる学習活動や市民活動が生涯学習施設、各コミュニティセンター等を活用して盛んに行われています。また、行政だけでなく、教育機関や市民活動団体、民間事業者等によって、多様な学習機会が市民に対して提供されています。従来も行政はこれらの活動に対する支援の充実に努めてきました。しかし、最



総合体育館

近、地域の持つ教育的機能の変化や青少年の生き方や勤労意識の変化等、生涯学習をとりまく社会状況が変わりつつある中で、多くの課題が新たに生まれて



さざなみホール

きています。これらの課題を踏まえて、将来にわたる生涯学習を具体化し、かつ推進していくことが必要となってきました。

一方で、市民の生涯学習の拠点である野洲文化ホール、さざなみホール、歴史民俗博物館、総合体育館等の施設については、いずれも建築後20年以上が経過し、老朽化してきており、施設設備の大規模改修等を今後、計画的に行う必要が出てきています。

また、市民の芸術、文化振興のために、作品展示や交流が図れる市民ギャラリー等を、既存の施設を活用する中で提供していくことも必要です。

生涯スポーツ施設においても、総合体育館をはじめ市民グラウンド、野洲川河川公園等が整備されており、スポーツに親しむ市民が増加しています。

各学区体育振興会や総合型地域スポーツクラブでは、地域の人たちと気軽にスポーツを楽しむ活動が展開されており、体力向上はもとより世代間交流や地域間交流に大きく寄与しています。市ではこうした活動に対して支援を行います。

(2) これからの生涯学習の展望

従来の個人や個々のグループによる学習やスポーツ活動は、既存の生涯学習施設やコミュニティセンター等を活動場所として盛んに利用し行われています。今後は、新たな生涯学習振興の切り口として、行政だけでなく大学等高等教育機関や市民活動団体、民間事業者等によって、多様な学習情報が市民に対して提供されていくことが予想されます。行政は、今後柔軟かつ斬新な発想力をもって、これらの活動に対する支援策を提示していかなくてはなりません。

3 計画の推進に向けた課題及び計画の方向性

(1) 計画の推進に向けた課題

① 野洲市民に求める生涯学習

現在、講座を受講している人はもとより、多くの市民においても学習に対する関心は高いものがあるため、さまざまな市民の声に答えられるよう、さらなる多彩な学習プログラム

を提供するとともに、市民のライフスタイルの多様化に対応できるような学習内容が必要です。

また、より多くの講師・指導者を確保していくために、常に新たな人材を発掘し、育成に努める必要があります。



音楽のあるまちづくりコンサート

②学習の成果を地域で活かす

- 市民が、目標を持って学習ができ、その成果がさまざまな場で発揮できるための支援が必要です。
- 市民が多くのことを学び、指導できる能力に達した時には、その人材を「指導者」として活かすことができるしくみ作りを行うことが必要です。

③学習を通じた交流

生涯学習の輪を広げ、また、地域のつながりを深めていくために、生涯学習を通じて、家族や地域の人とひととのふれあいの場が必要です。



親子ふれあい活動

④生涯学習の推進体制

市民の生涯学習への取り組みを促すためには、市民のライフスタイルに合った生涯学習情報の提供や相談体制の充実等が必要です。そして、生涯学習を推進していくうえで、庁内の関係部署や関係機関との連携が必要です。

(2)計画の方向性

生涯学習・生涯スポーツへの取り組みを通じて、人も地域社会も内側からいきいきと活性化する「生涯学習社会」を築くことをめざします。そして、生涯にわたる学習機会をさらに拡充させて、市民一人ひとりの知識・技能等の「学習」「地域活動への参画」「問題解決のための提案・行動」が連続した流れとなるよう、学習と行動を連結させ、循環するよう留意していくとともに、市民の力を培う活動を促進していくことが、生涯学習のまちづくりに大きな役割を果たすものと考えます。

第3章 計画の基本的視点・基本目標と施策の柱

生涯学習は、個人やサークルとしての趣味や単に教養を身に付けるためだけのものではなく、人権や環境問題等の社会的課題や地域課題、就労や子育て等身近な生活課題、ボランティア活動等社会参加情報の獲得まで幅広い分野に裾野がますます広がっています。市民による充実した生涯学習のためには、こうした状況に応える計画でなくてはなりません。

本計画では、次の視点を設定し、施策の柱と基本目標を定めて、生涯学習の振興を図ります。

1 基本的な視点

(1) 多様な学習と人材の発掘・育成

健康、福祉、消費生活、防災、安全、人権、教育、芸術、子育て等、市民の学習への意欲は多様化しています。これら社会的ともいえる課題に対応した学習機会の充実が必要です。また、市民が望む学習課題に対応ができる講師、指導者を確保するためには、新たな人材の発掘と育成に努めなくてはなりません。

(2) 学習の成果を活かすことの大切さ

生涯学習を通じて、身につけた知識や技能、経験が地域社会で活かされ、また、その成果が発揮されることにより、学習しようとする意欲は高まります。

そのためにも、学習して身につけた事柄が活かされ、成果が発表できる環境づくりが大切です。

(3) 仲間づくりの場として

学びの成果を地域や社会の中で仲間とともに活かせるよう、学習者同士の交流の機会や仲間づくりの場づくりが必要です。

2 基本目標

一人ひとりが大切にされ、おとなも子どもも学びあう ひとづくり・まちづくり

野洲市は一人ひとりが大切にされ、おとなも子どもも自ら学びあい、人生を生き生きと過ごせる、そのようなひとづくり・まちづくりをめざしています。そのために、一人ひとりが生き生きと輝く個性をはぐくみながら、地域社会の中で、自らの居場所や活躍の場を広げ、共に育ち、共に発展する社会を実現する必要があります。



生涯学習セミナー

「学ぶ」「活かす」「つながる」「広がる」
「健康」を生涯学習環境の創造の目標として掲げ、さまざまな取組みを進めます。

(1) 市民の主体的な生涯学習の展開

市民が生涯学習を通じて自己を高め、健やかな心身を養い、潤いのある生きがいを感じられる生活をめざして行くことが、まちの活力となります。一人でも多くの市民が学習活動に参加し、市民同士が学習を通じてふれあい、互いの学習を支えあい、主体的に学習を行う場づくりが大切です。

(2) 地域における生涯学習の振興

市民の暮らしや地域社会の課題解決のためには、継続的な学習・交流の場を市・行政区・地区レベルで形成する必要があります。また、そうした場において、自ら学び自ら課題解決に取り組む力を高めていけるよう幅広い市民の参加を得て、人材確保・育成を行うと共に、地域における市民主体の学習活動を振興する必要があります。

(3)協働による生涯学習の推進

いうまでもなく生涯学習の主役は市民であり、行政が行う生涯学習施策は、市民の主体的活動を支援するために行われるものです。限られた資源を有効に使いつつ成果をあげるために、行政と市民・団体・学校・地域・民間教育事業者等が連携、協働し、学習環境の充実に努めることが重要です。

3 施策の柱

基本目標の達成のために、「学ぶ」「活かす」「つながる」「広がる」「健康」という5つの柱を設定します。

(1)「学ぶ」 市民が自ら学べる生涯学習環境づくりを進めます。

① 市民の学習ニーズに対応した学習機会の充実

一人ひとりが生きがいを持ち、心豊かで健康な生活が送れるよう市民の学習ニーズに応じた多様なプログラムを用意し、自主的な学習活動を支援します。

② 社会的課題に応じた学習機会の充実

社会の急激な変化の中で、地域が抱える様々な社会的課題(人権、健康、福祉、環境等)に対応した学習機会の充実を図ります。

(2)「活かす」 学ぶことが活かされるしくみを構築します。

① 学習活動で身につけた知識や技術等を発表し、活かしたいと考える市民に対して、その場を提供し、学習成果が活かせる環境づくりに努めます。

② 学びの成果を地域等で仲間とともに活かせる交流や仲間づくりの場を提供します。



野洲市文化芸術祭

(3)「つながる」 情報を提供します。

① 市民の生涯学習に関する情報をホームページ、市の広報等あらゆる方法を活用し、提供します。

② 生涯学習を地域づくりと仲間づくりの面にとらえ、市民に参加を促します。

(4)「広がる」 市民による生涯学習の意欲の喚起と実践の輪を広げます。

- ① 地域ごとのコミュニティセンターを拠点として、全ての市民に学習の場と機会を提供できるよう努めます。
- ② 生涯学習活動を進め、そのひろがりを図っていくためには、地域のリーダーとなる人材が必要です。このため各自治会から推薦いただいた「生涯学習推進員」を委嘱し、研修会を開催する等活動を支援します。



生涯学習推進員研修会

(5)「健康」 スポーツが生涯にわたり心身ともに健康で気軽に楽しくできる生涯スポーツの実現に努めます。

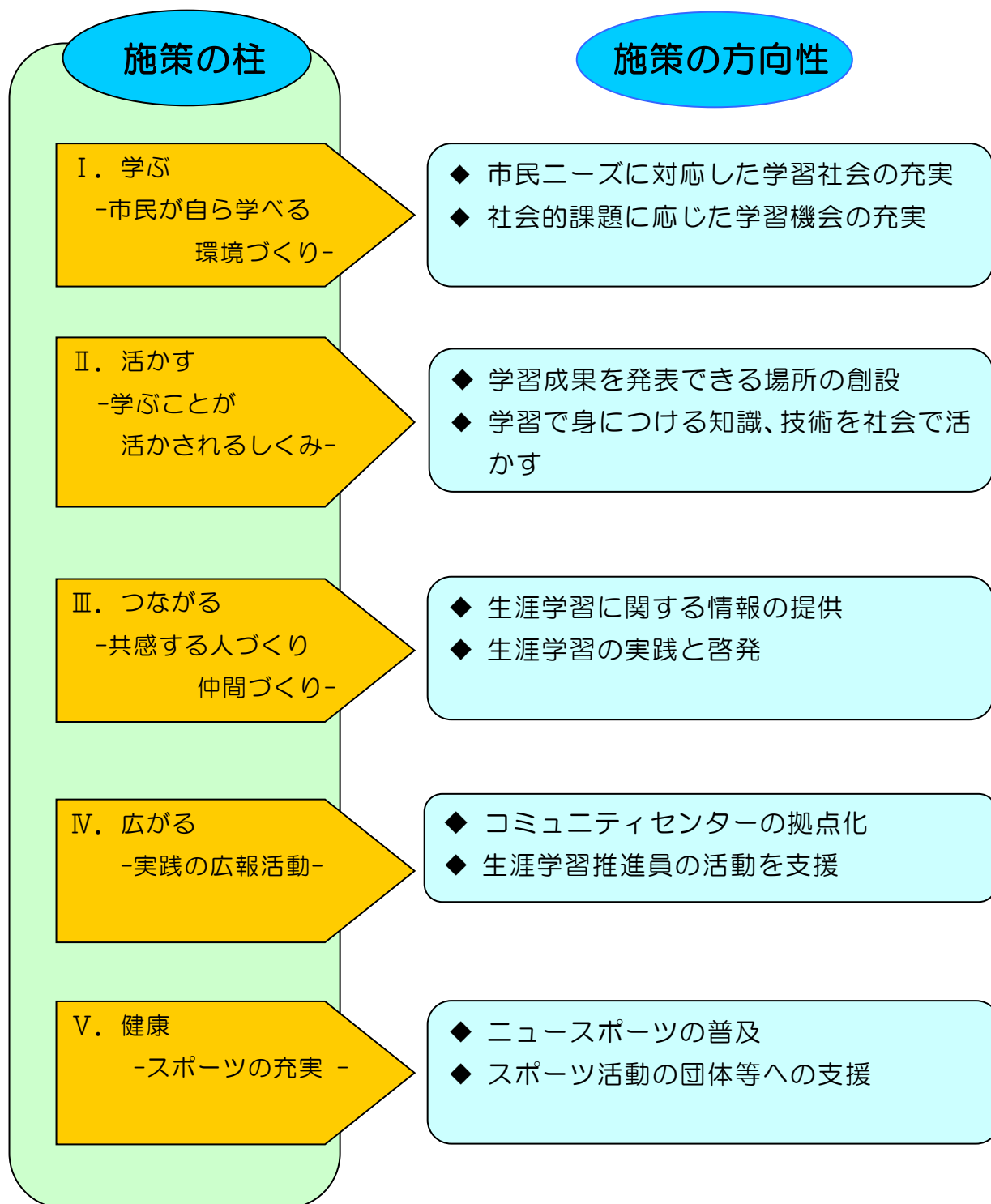
- ① スポーツに親しむことは、健康で快適な日々を送るための原動力となります。多くの市民に汗を流すことの爽快感を感じてもらえるよう、ニュースポーツ等の普及に取り組みます。
また、各種スポーツ大会の開催や指導者育成のための生涯スポーツリーダー育成セミナー等を開催し、市民のスポーツへの参加を促します。
- ② 体育協会を始めとして総合型地域スポーツクラブやスポーツ少年団等の活動が活発に展開されています。また、地域では、各学区体育振興会等が、活発に活動をされており、これらに対し、市はその活動を支援します。



生涯スポーツリーダー育成セミナー

4 生涯学習振興施策体系

生涯を通して学び続けられる学習活動の実現



第4章 施策の展開

1 【学ぶ】ために

市民の生涯学習に対する意欲は高く、またそのニーズも各年代で違い、広範囲かつ多岐にわたっています。

また、一方で、学習活動に取り組みたいと願いながら、時間的な制約等の理由により困難な市民も少なくありません。

そこで、施設の活用方法を工夫する等して、新たな学習者の掘り起こしを進めるとともに、人生の成長の過程に対応した幅広い学習プログラムを提供し、市民ニーズに対応した学習と社会的な課題を取り扱った学習とのバランスを保ちつつ、さまざまな学習機会の提供と充実を図ります。

市では、市と地域住民とが地域課題を一体となって考える機会として、「生涯学習出前講座」の充実を図ります。また、協働のまちづくりの一環として市民サークルが自ら行う学習機会を含めて、各地域のコミュニティセンターや滋賀大学社会連携研究センター等との連携を図ります。

《具体的な施策の内容》

① 市民の学習ニーズに対応した学習機会の充実

No.	事業名
1	生涯学習出前講座
2	エアロビスクール
3	太極拳教室
4	健康体操スクール
5	ヨガスクール
6	レディースフィットネススクール
7	メンズフィットネススクール
8	シェイプアップエアロ
9	太極拳教室剣コース
10	ソフトエアロ&ボールエクササイズ

第4章 施策の展開

11	図書館まつり
12	図書館おはなし会
13	銅鐸博物館市史・郷土史講演会
14	古代体験教室
15	弥生の森体験学習
16	その他

※上記事業は、教育委員会所管分を記載しています。

② 社会的課題に応じた学習機会の充実

No.	事業名
1	生涯学習セミナー
2	じんけんセミナー
3	同和問題講演会
4	人権教育研究大会
5	その他

※上記事業は、教育委員会所管分を記載しています。

2【活かす】ために

学習成果を広く周知し、学習しようとする市民が「学びがい」を感じられるよう、その成果の発表の場の充実に努めます。

《具体的な施策の内容》

① 学ぶことが活かせる環境づくり

No.	事業名
1	学校体育施設開放
2	ジュニアダンススクール
3	チアスクール
4	さざなみホール ピアノ演奏会
5	さざなみ音楽教室発表会
6	音楽のあるまちづくりコンサート
7	銅鐸博物館企画展・テーマ展
8	その他

※上記事業は、教育委員会所管分を記載しています。

② 学ぶことが地域等で仲間とともに活かせる場の提供

No.	事業名
1	北村季吟顕彰記念事業
2	野洲市美術展覧会
3	野洲文化芸術祭
4	文学の散歩道
5	はつらつ野洲っ子育成フォーラム
6	地区別懇談会（人権啓発等）
7	人権教育推進員研修会
8	その他

※上記事業は、教育委員会所管分を記載しています。

3【つながる】ために

生涯学習に関する情報については、市ホームページおよび広報等を活用して紹介します。

《具体的な施策の内容》

市広報誌や市ホームページを活用し、展開されている色々な活動、開催されている講座等の情報について積極的に広く市民に紹介します。

① 市民の生涯学習に関する情報の提供

No.	事業名
1	ホームページ「教育委員会のページ」の充実、更新
2	「野洲市教育の日」の趣旨の普及・啓発
3	新着図書・統計資料・図書館企画のHP上での公開
4	その他

※ 上記事業は、教育委員会所管分を記載しています。

②生涯学習の啓発と地域での取り組み

No.	事業名
1	まちぐるみで愛の声かけ運動
2	街頭補導啓発（初発型非行防止）
3	その他

※上記事業は、教育委員会所管分を記載しています。

4 【広がる】ために

市の社会教育委員を中心として、市民の生涯学習への意欲や希望について把握し、「市民のための生涯学習」づくりを進めます。

現在、市で委嘱している生涯学習推進員について、その活動状況を整理し、また「社会教育委員制度」とのよりよい関係と在り方について検討する等して、市の生涯学習を進めるための組織を活性化させます。

《具体的な施策の内容》

① 市民への学習の場と機会の提供

No.	事業名
1	大学の公開講座（REC コミュニティカレッジ等）
2	その他

※上記事業は、教育委員会所管分を記載しています。

② 社会的リーダーとなる活動の支援

No.	事業名
1	生涯学習推進員研修会
2	生涯学習セミナー
3	野洲市音楽のあるまちづくり
4	その他

※上記事業は、教育委員会所管分を記載しています。

5【健康】のために

市民がいつまでも健康で、生涯スポーツを通じて充実した人生を楽しめるような地域社会と仲間づくりのために必要な施策を進めます。

《具体的な施策の内容》

- ニュースポーツの普及と機会の提供

No.	事業名
1	生涯学習出前講座
2	生涯スポーツリーダー育成セミナー
3	ストックウォーキング
4	ヨット試乗体験会
5	マリンスポーツフェスティバル
6	ドラゴンカヌー大会
7	カヌー教室
8	トレーニング室使用者講習会
9	その他

※上記事業は、教育委員会所管分を記載しています。

◆上記事業は、教育委員会の他にも事業を行っております。

第5章 生涯学習推進のための施設のあり方

野洲市には野洲文化ホール、小劇場、さざなみホールや図書館、歴史民俗博物館また総合体育館等の文化体育施設がそろっており、さらには、地域ごとに整備されているコミュニティセンターを含め、市民の生涯学習のための施設は整っています。

しかし、多くの施設が建設から相当年数が経過しており、老朽化が進んでいます。また整えられている設備を含めて、改築、改善、また大規模な改修の必要な時期が到来しているものの、極めて厳しい財政状況が続く中で、計画的な対応ができていないのが現状です。

本市では市民の活発な学習活動を推進するため、必要に応じて施設の修繕等を行っていく一方で、市全体での公共施設のあり方の検討を進めています。今後は、本市における文化・スポーツ行政のあり方を示しながら、生涯学習を推進する施設のあるべき姿を検証していきます。



野洲文化ホール

《具体的な施策の内容》

- ① 文化体育施設、その他の生涯学習施設の適正な維持管理の実施
- ② 市民ニーズの把握と生涯学習推進施設のあり方の検討

野洲市施設一覧

■野洲市生涯学習関連施設一覧

施設名	電話	住所	整備年度
野洲文化ホール	077-587-1950	野洲市小篠原2142	S58
野洲文化小劇場	077-587-1950	野洲市小篠原2142	H2
さざなみホール	077-589-3111	野洲市比留田3313-3	H4
野洲市総合体育館	077-587-3477	野洲市富波甲1339	H1
中主B&G海洋センター	077-589-5100	野洲市六条460	S56
体育センター	077-588-4980	野洲市大篠原3333-6	S61
なかよし交流館	077-587-6511	野洲市富波甲1339-24	H19
野洲川河川公園	077-586-0800	野洲市三上	S61
野洲川歴史公園(ビックレイク)	077-584-3366	守山市服部町2439	H17
蓮池の里多目的公園	077-589-2117	野洲市須原598	
野洲図書館	077-586-0218	野洲市辻町410	H14
野洲図書館中主分館	077-589-3382	野洲市西河原2400	H25
歴史民俗博物館(銅鐸博物館) 弥生の森歴史公園	077-587-4410	野洲市辻町57-1	S62
野洲市人権センター	077-588-4533	野洲市小篠原1780	S54
市民交流センター	077-589-5000	野洲市北比江86	H23
野洲市健康福祉センター	077-588-1788	野洲市辻町433-1	H4
野洲クリーンセンター	077-588-0568	野洲市大篠原3335	H28
コミュニティセンター みかみ	077-586-5234	野洲市三上828	H5
コミュニティセンター ぎおう	077-586-3200	野洲市永原463	H3
コミュニティセンター したのはら	077-587-1444	野洲市大篠原4024-2	H4
コミュニティセンター きたの	077-586-2450	野洲市市三宅313	H9
コミュニティセンター やす	077-586-3864	野洲市小篠原2142	S58
コミュニティセンター なかさと	077-589-4740	野洲市西河原2366-1	H18
コミュニティセンター ひょうず	077-589-4010	野洲市六条1509-1	H18

計画策定の経過

	開催日	主な内容
第1回	平成24年 6月29日	○ 生涯学習振興計画策定のスケジュール等の説明
第2回	10月 3日	○ 第1章計画策定、第2章計画策定の背景及び現状と課題、第3章計画の基本理念・基本目標の概略説明
第3回	平成25年 1月18日	○ 第1章～第3章の修正報告と第4章計画推進の概略説明、検討
第4回	3月27日	○ 第4章計画の推進説明の修正説明、検討
第5回	6月28日	○ 具体的な内容、施策の検討、修正
第6回	8月30日	○ 具体的な内容、施策の検討、修正
第7回	12月25日	○ 最終原案まとめ
	平成26年 2月	○ パブリックコメント
	平成29年 3月	○ 中間見直し